

I 調査地点周辺の概要

本書は、熊本大学黒髪北地区で2005年度に建設された、情報ネットワーク館関連の埋蔵文化財発掘調査に関する発掘調査報告書である。法・文・教育・工・理学部の校舎が設置されている**黒髪地区**は黒髪町遺跡（熊本市埋蔵文化財地図No 8-88）に含まれる。本遺跡は熊本市中心部のほぼ北東端に位置する立田山（標高151.6m）の南西部の緩斜面に位置し、西は坪井川に形成された沖積面、南を白川河岸の低位段丘とによって囲まれる、東西900m、南北1000mの遺跡群であり、縄文時代から歴史時代に至る遺構・遺物を包蔵している。熊本大学敷地内に所在する遺跡全体の概要は、既刊の埋蔵文化財調査室報告書第1集に詳しいので、そちらを参照されたい（小畑編2003）。ここでは、今回の調査で検出された、縄文時代と古代に関する周辺遺跡やこれまでの成果について、概要を述べる。

縄文時代の遺跡としては、白川の対岸に、渡鹿貝塚や、北久根山式土器の指標遺跡である北久根山遺跡が存在する。熊本大学構内遺跡でも黒髪町遺跡0302地点他で縄文時代草創期末～早期の土器が出土しており、同じく黒髪北地区南西端の9802調査地点においても、押型文土器や縄文時代後期に属する土器が出土している。周辺地域においても、縄文時代の生活の跡が発見されている。

古代の黒髪地区は、文献で推定されていた延喜式にみる「養蚕駅」や、旧飽田郡家の推定地としても注目を集めてきた（木下1975・1995）が、近年ではこれまでの周辺遺跡での発掘成果および文献資料の検討より、済々黌高校から本学黒髪地区周辺が飽田郡郡司建部公の居所であり、飽田郡家として比定するなどの積極的な意見が展開されている（鶴嶋1997）。

これらを裏付けるように、黒髪南地区では、9412調査地点で、正字「國」銘の書かれた土製印が出土し、共同溝建設に伴う発掘調査では、「西海道」の一部の可能性が想定される道路状遺構が検出されている。本報告の調査地点が所在する黒髪北地区では、くすのき会館建設時の発掘調査（9407地点）において、「馬」銘の刻書土器・土馬などが出土している。このように、黒髪北キャンパス周辺は先史時代のみならず、古代律令制下の駅伝制を考える上できわめて重要な地域である。

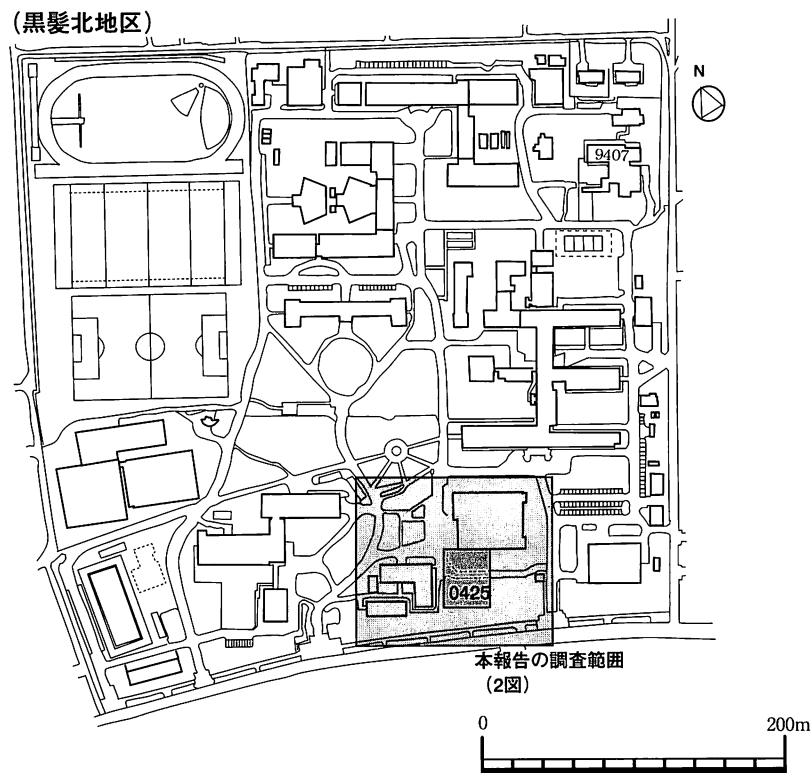


図1 黒髪北地区 本報告調査地点の位置

1. 熊本大学敷地と構内遺跡の概要

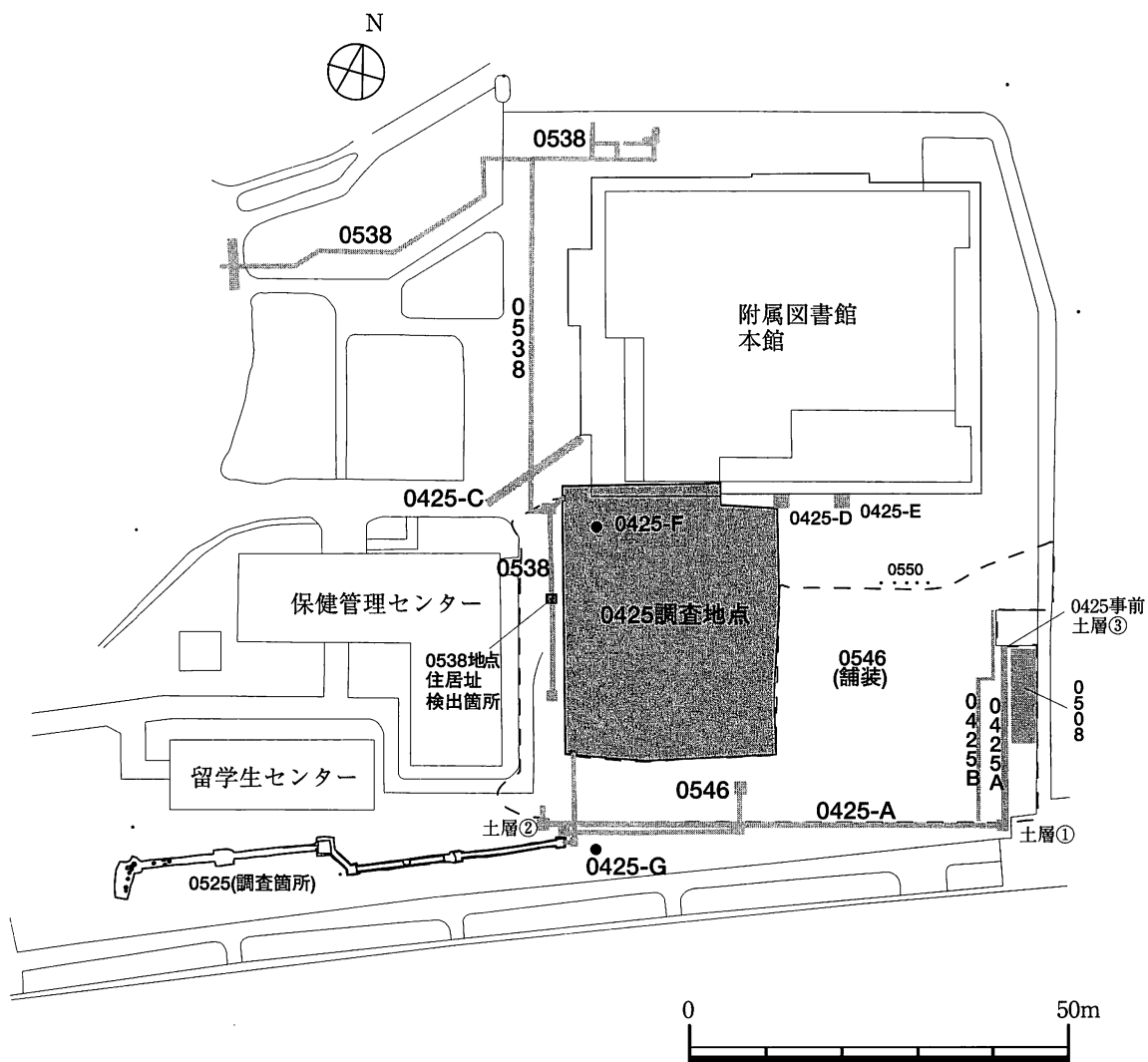


図2 本報告での調査地点配置図